

○事業所名	放課後等デイサービス しながくどう青葉		
○保護者評価実施期間	2025年2月15日		～ 2025年3月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2025年2月15日		～ 2025年3月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月29日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広い空間や複数の個室を活用することで、こどもの特性や支援の目的に応じた柔軟な対応が可能となっている。加えて、清潔で安全な環境の維持に努め、安心して活動できる場を提供している。	活動プログラムが固定化しないよう、こどもの成長や関心の変化を考慮しながら、さまざまなプログラムを計画している。特に、運動・学習・創作活動などバランスの取れた内容を提供し、多様な経験を積めるよう工夫している。	こどもの成長や支援の効果をより的確に把握するために、モニタリングの頻度を増やし、記録の精度を高める。定期的に振り返りを行い、支援計画の修正や支援方法の見直しを迅速に行えるよう体制を強化する。
2	こども一人ひとりの特性を十分に把握した上で、発達段階や興味関心に応じた個別の支援計画を作成し、それをもとに支援を行っている。計画の実施状況は随時振り返り、必要に応じて修正を加えながら支援の質を向上させている。	個別活動と集団活動のバランスを重視し、こどもの特性やその日の体調・気分に応じた支援を行っている。場面ごとに適切な環境を整えることで、無理なく参加できるよう配慮し、自信を持って取り組める機会を増やしている。	職員間の情報共有をさらに円滑に行うため、定期的なミーティングやケース検討会を実施し、支援方針の統一を図る。職員が持つ知見や経験を共有することで、支援の質を高めるとともに、スムーズな連携を実現する。
3	アセスメントツールを導入し、こどもの得意なことや苦手なことを客観的に把握しながら支援を進めている。データに基づく支援を行うことで、保護者とも共通認識を持ちやすくなり、家庭との連携も強化されている。	保護者との連携を大切に、こどもの成長や変化を随時共有できるよう努めている。面談や連絡帳の活用に加え、必要に応じて個別の相談時間を設けることで、家庭との情報共有をスムーズにし、支援の一貫性を確保している。	保護者との関係をより密にし、支援の理解を深めてもらうため、支援内容に関する説明会や個別相談の機会を増やす。家庭での対応についても具体的なアドバイスを提供し、一貫性のある支援ができるよう努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様より「もう少し細かく状況を知りたい」との意見が寄せられており、児童の状況に応じてモニタリングの頻度を高めていく必要がある。	現在は半年に一度の実施が基本となっている。他の業務量との兼ね合いから、モニタリングの頻度を高めての実施ができていない。	事業所の業務効率化を図っていくことに加え、オンラインツールも活用しながら、保護者様との情報共有の機会を増やしていく。
2	療育プログラムが、小集団・個別療育を中心としており、散歩や外遊びなどの屋外活動の機会が不足しているとの声を頂いている。	衝動性が高い児童も多く、お子様の安全面を考慮して実施が限られている。 職員体制の拡充、スキルアップが求められる。	安全面に十分留意した上で児童の人数を限定して実施していくことを検討する。また、職員体制の充実・スキルアップを図っていく。
3	中高生の児童へ向けた実際の作業体験の機会や、職場見学などの機会を増やして欲しいとの声を頂いている。	個別対応が必要な児童も多く、上記同様、児童の安全面を考慮して実施が限られている。 職員体制の拡充、スキルアップが求められる。	長期休みの機会を活かして、児童の人数を限定して実施していくことを検討する。事業所内外での研修会参加の機会を増やして職員のスキルアップを図っていく。